

公務出國或赴大陸地區報告（出國類別：考察）

日本一關市綠色農遊考察活動

服務機關：臺中市政府農業局

姓名職稱：黃靜淑股長

派赴國家：日本

出國期間：115年5月26日至115年5月30日

報告日期：115年

目錄

摘要.....	1
出國人員名單.....	1
目的.....	1
過程.....	2
心得.....	9
建議.....	10
附件.....	11

一、摘要

本次隨霧峰區農會赴日本岩手縣一關市、平泉町及宮城縣登米市、栗原市等地進行農業及農村發展交流考察，行程涵蓋農業產銷、加工增值、循環農業及文化觀光等多元面向。期間拜會 JA 平泉農業協同組合，並參訪稻米集貨出貨中心，瞭解其透過標準化分級、集中運銷及物流整合，提升農產品品質與市場競爭力之運作模式；亦與一關市、平泉町、登米市及栗原市等地方政府及相關產業代表進行農業發展交流，分享臺日雙方農業政策推動、特色農產及產業發展成果。同時參訪世嬉酒造，觀摩其以品牌再造及文化資產活化為核心，成功轉型為結合博物館、餐飲及體驗空間之複合式經營案例，展現傳統產業升級之多元路徑。此外，亦參訪 ARK 館之森、道之驛及健康森林等設施，學習其以循環農業理念整合生產、加工與體驗服務，實踐六級產業化與永續經營模式；並走訪中尊寺及猊鼻溪等文化及自然資源場域，觀察其結合歷史文化、生態景觀與農村旅遊之發展模式，成功帶動地方觀光及社區活化。本次考察有助深入瞭解日本地方政府及農業組織在產業整合、品牌經營及資源永續利用之成熟經驗，對本市未來推動食農教育、農業升級轉型及農村多元發展，具高度參考價值與政策啟發意義。

二、出國人員名單

姓名	職稱	服務機關單位
黃靜淑	股長	臺中市政府農業局 農會輔導休閒農業科

三、目的

本次出國考察係與霧峰區農會赴日本岩手縣一關市、平泉町及宮城縣登米市、栗原市等地進行農業交流與農村旅遊及農產行銷實地觀摩，並就本市農村旅遊發展政策與實務運作進行學習。行程期間拜會 JA 平泉農業協同組合及當地政府機關，了解其推動農業產銷整合與在地治理協力機制，並參訪世嬉酒造等農產加工與品牌化經營案例，汲取農產品加

值與地方產業鏈延伸之經驗。同時，觀摩 ARK 館之森、道之驛及健康森林等循環農業與多元經營場域，瞭解其如何結合農業生產、環境永續與觀光體驗，建構完整六級產業發展模式。此外，走訪中尊寺及猊鼻溪等文化及自然資源據點，觀察地方如何整合文化資產與農村觀光發展，提升整體農村經濟與生活品質。期藉由本次隨團交流，除協助深化本市霧峰區農會及日方相關單位合作關係，並作為未來推動本市農村旅遊升級轉型及食農教育政策規劃之參考。

四、過程

表一、參訪行程及活動照片一覽表

115年5月26日(星期二)	
臺灣桃園市、日本仙台市、一關市	
●上午11時35分自桃園國際機場搭機前往日本仙台機場，並於當地時間下午3時40分抵達，展開本次日本農業及農村發展交流考察行程。 ●抵達後搭車前往一關市貝里諾酒店辦理入住，並進行後續行程準備。 ●晚間參加歡迎晚宴，與一關市政府顧問團隊進行交流，說明本次考察團訪日目的及核心交流議題，並由各參訪單位代表進行介紹，包括臺中市政府農業局、臺中市農會、霧峰區農會、大肚區農會及清水區農會等。	
	
與一關市政府顧問團隊交流	與一關市政府顧問團隊交流

115年5月27日(星期三)

日本一關市、平泉町

- 拜會平泉農業協同組合（JA 岩手平泉），並參訪稻米集貨出貨中心，瞭解農產品集貨、分級、包裝及物流配送等運作機制，以及農協在整合產銷體系與提升農產品市場競爭力之推動經驗。
- 參訪世嬉酒造，觀摩百年清酒品牌透過產品創新、品牌再造及行銷策略實現品牌年輕化之經營模式；同時了解其活化歷史建築與文化資產，轉型為清酒博物館、特色餐廳及咖啡廳等複合式經營場域，兼顧文化保存與產業發展效益之成功案例。
- 走訪中尊寺等重要文化景點，深入了解一關市與平泉町如何結合世界文化遺產、地方歷史文化及農業資源，發展具在地特色之農村旅遊模式，藉以帶動地方產業發展及農村活化。



拜會平泉農業協同組合



拜會平泉農業協同組合



平泉農協簡介



參觀平泉農協穀倉



稻穀選別機



收穀堆置示範(不採用棧板)



百年清酒品牌再造介紹



活化歷史建築與文化資產



走訪中尊寺



中尊寺活動場地介紹

115年5月28日(星期四)

日本一關市、栗原市

- 與岩手縣一關市、平泉町及宮城縣登米市、栗原市等地方政府及相關產業代表進行農業發展交流，分享臺日雙方農業政策推動、特色農產及產業發展成果。活動內容包含農特產品展示、試吃試飲體驗及業者交流媒合，藉由實質互動增進雙方對彼此農業特色與市場需

求之了解，並探索未來農產行銷、產業合作及國際交流之可能性。



與一關市、平泉町、登米市及栗原市政府及相關產業代表進行農業發展交流



與一關市、平泉町、登米市及栗原市政府及相關產業代表進行農業發展交流



一關市、平泉町、登米市及栗原市產業介紹



一關市、平泉町、登米市及栗原市農產品展示



台灣農創所屬農會股東農產品展示



台灣農創所屬農會股東農產品展示



產業交流



行銷本市清水區韭菜麵

115年5月29日(星期五)

日本一關市

- 參訪 ARK 館之森，瞭解其以循環農業理念推動農場經營之模式，透過整合農業生產、農產加工及體驗服務，串聯一級生產、二級加工與三級服務產業，實踐六級產業化及產銷一體化之經營策略。
- 走訪道之驛，學習其運用交通節點優勢，結合在地農特產品展售、觀光資訊服務及地方文化推廣，將公路人流轉化為地方產業發展動能，帶動區域經濟活絡與農村振興。
- 參訪健康之森，瞭解其森林療癒、住宿空間及相關體驗課程之規劃與營運模式，並就休閒農業、健康促進及體驗活動等面向進行交流。



參訪 ARK 館之森



一級農業生產(畜牧飼養)



二級農產加工(使用園區生產的肉
品開發二級加工品)



三級服務產業(結合園區生產的肉
品及蔬果發展三級服務餐廳)



走訪道之驛



走訪道之驛



運用交通節點優勢，結合在地農
特產品展售



運用交通節點優勢，結合在地農
特產品展售



參訪健康之森



健康之森體驗課程



健康之森活動場域介紹



健康之森活動場域介紹



出訪心得交流



感謝一關市政府顧問團隊

115年5月30日(星期六)

日本一關市、仙台市、臺灣桃園市

- 走訪狹鼻溪，搭乘當地傳統木舟進行生態導覽，瞭解地方社區如何善用自然景觀資源發展生態旅遊，並透過居環境維護及文化傳承，推動兼顧保育與產業發展之永續觀光經營模式。

- 考察行程結束後，搭車前往仙台機場，於下午5時20分搭乘班機返回桃園國際機場，並於晚間8時6分抵達，順利完成本次日本農業及農村發展交流考察行程。



走訪狢鼻溪



搭乘當地傳統木舟進行生態導覽

五、心得

本次隨團赴日本岩手縣一關市、平泉町及宮城縣登米市、栗原市等地進行農業及農村發展考察，整體行程涵蓋農業生產、加工增值、通路行銷、循環農業及文化觀光等多元面向，收穫甚為豐富。透過拜會 JA 平泉農業協同組合及參訪稻米集貨出貨中心，深入了解農協在整合產銷體系、強化品質分級與物流效率方面之運作機制，展現一級生產與市場接軌之高度組織化能力。

另於世嬉酒造之參訪中，觀察其透過品牌再造與產品創新，成功推動老字號企業年輕化轉型，並結合文化資產活化，將歷史場域轉化為清酒博物館、餐飲及休憩空間，兼顧文化保存與經濟收益，提供傳統產業升級之重要借鏡。此外，於 ARK 館之森、道之驛及健康森林等場域之觀摩，亦深刻體會日本如何透過循環農業與六級產業化模式，整合生產、加工與服務體驗，強化農村多元經營與永續發展。

在文化與觀光面向方面，走訪中尊寺及狢鼻溪等地，觀察地方如何結合世界文化遺產與自然資源，發展具在地特色之農村旅遊，成功帶動地方經濟與社區活化。整體而言，本次考察充分展現日本地方政府與農協組織在產業整合、品牌經營及資源活化之成熟經驗，對本市未來推動

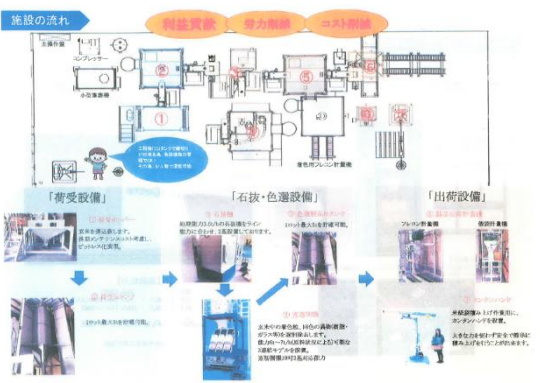
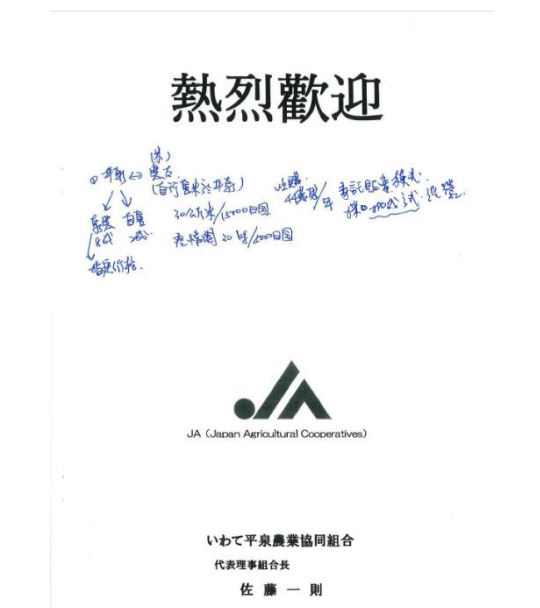
食農教育、農業升級轉型、農村永續發展及綠色農遊規劃，具有重要參考價值與啟發意義。

六、建議

本次參訪建議可從強化產銷整合、推動產業增值與深化農村多元發展3大面向持續精進。借鏡 JA 平泉農業協同組合之運作機制，強化本市農會在集貨、分級、運輸與共同運銷之整合功能，提升農產品品質穩定性與市場競爭力；同時參考世嬉酒造之品牌轉型經驗，導入農產品品牌年輕化、故事行銷及文化資產活化模式，推動農業與觀光、餐飲等跨域整合；並借鏡 ARK 館之森及中尊寺等場域經驗，發展循環農業及結合文化與自然資源之農村旅遊，強化六級產業鏈結與地方創生效益，帶動農業產業升級與增值發展，提升農村經濟多元收益來源，強化永續環境經營與資源循環利用，同時深化食農教育推廣及地方文化認同，並促進國際交流與政策經驗借鏡，對本市推動農業轉型及農村永續發展具正面且具體之綜合效益。

七、附件

表二、自國外攜回具參考價值之資料

平泉農業協同組合簡介	
	
	
平泉農業協同組合致詞內容與介紹	
	台湾農創の皆さま 今日ようこそいらっしゃいました。 こちらの言葉で言えば「よく違いとこきてけたっちゃねー。まずまずあがってお茶ごでも飲んでからえいん」 昨年、わが職員おじゃました時大変、お世話になりました。御礼申し上げます。 さて、私どもの農協は、組合員 19,136 人の県内 7 つの農協の中では中堅の規模のところ。エリアは、一関市と平泉町でございます。平泉黄金文化の地を管内とし、「大地のめぐみを未来へつなぐ」、「黄金の里づくり」をキャッチフレーズにしています。 『農』を通じた人々が共に生きる活動を通して、地域に暮らす全ての人たちが共に生きる、地域農業という姿を目指して運動しています。 岩手県でも一番南に位置する農協でございますので気象的にもいいところでございます。「安全・安心そしておいしい農地畜産物をていこうしています。」

ですからお米はもちろんのこと野菜・花き・果樹でも、畜産でも、市場の皆さん・消費者の皆さんから高い評価を受けています。

ここは米倉庫でございますので、お米のことを少しお話しさせていただきます。

当管内は、「ひとめぼれ」と岩手県のフラッグシップ米の「金色の風」「銀河のしずく」を中心に栽培しています。主力のひとめぼれでは食味ランキングにおいて、7年ぶりに「特A」を奪還いたしました。東北ではわが地域のみということです。また全農いわてのH1ー1グランプリ(ひとめぼれ食味コンテスト)においても花泉地域が優秀賞を獲得しています。

「至福の味、金色の風」コンテストにおいて4年連続の一位を獲得し、良食味産地であることをアピールできています。「銀河のしずく」頂上コンテストでも入賞があり、高品質がアピールされています。

時間が経ちました。

私たちの国は、カロリーベースの食料自給率は38%で先進国から大きく離れています。15年連続で4割を割りこみ、食料の過半を外国に依存しています。また高齢化、後継ぎがいない。わかいひとの都会流出があります。ただ嘆いていてもしょうがありません。

農業には定年がありません。そういう私も、「職場を去るときになって、生涯現役を続けられる農業の魅力にあらためて気づかされた一人」です。『晴耕雨読』とはいかなくても顔に汗して働く快感が農業にはあると思います。

私たちは、60代は青年、80歳を超えてやっと中年という気持ちで頑張らないといけないと思います。

今日は皆様方とお会いできたこと、大変うれしく思います。

これで私からの概要についてのお話を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

臺日推廣交流出席人員表

“台灣農創×粟登一平” 推廣論壇

2026年5月28日(木) 15:00~19:00
Epoca21 Convention Hall
「清流の間」

《活動議程》

開場致詞 一關市市長
台灣農創興業股份有限公司 董事長

第1部 交流招待會 (15:10~16:40)

- * 四市町紹介
 - 一關市
 - 平泉町
 - 登米市
 - 栗原市
- * 台灣農創紹介

第2部 交流餐會 (17:00~19:00)

開場 栗原市市長
致詞 JA岩手平泉・JA宮城登米
乾杯 JA新宮城
記念品贈送
～自由交流～
閉幕 登米市市長

“台灣農創×粟登一平” プロモーションフォーラム

2026年5月28日(木) 15:00~19:00
エポカ21 コンベンションホール
「清流の間」

《次第》

挨拶 一關市長
台灣農創興業股份有限公司 董事長

第1部 レセプション (15:10~16:40)

- * 4市町の紹介
 - 一關市
 - 平泉町
 - 登米市
 - 栗原市
- * 台灣農創の紹介

第2部 懇親会 (17:00~19:00)

開会 栗原市長
祝辞 JAいわて平泉・JAみやぎ登米
乾杯 JA新みやぎ
記念品贈呈
～歓談～
閉会 登米市長



栗原市簡介





登米市簡介





在地企業食農體驗規劃介紹



宮城県登米市・體驗活動介紹

2025年11月
食農體驗 網絡 登米協議會
(有限会社伊豆沼農産)

1. 宮城県登米市の介紹

- 登米市盛行農業、畜牧業，農業產業生產額會列為縣內第一位。
- 被譽為「喜望的明治社」的登米町除了設有明治時期建造的高等尋常小學，水澤縣公所與警察局也依然留有明治時期的風貌。
- 位於登米市稻庭的「伊豆沼」於1985年成為《拉姆薩公約》的濕地之一，成為日本國內第二個被指定為拉姆薩公約的濕地，是日本東北最大的位於低地的湖澤（491ha）。
- 夏天的湖面會有藍片的荷花盛開，棲息於湖畔的越冬候鳥則被譽為日本第一。



2. 伊豆沼農產介紹(生産、製造、銷售部門)



2. 伊豆沼農產介紹(餐廳)

能利用當地農產品「伊豆沼」的農產，烹調出豐富多樣的料理。歡迎利用當地農產品「伊豆沼」的農產，烹調出豐富多樣的料理。

營業時間：11:00～21:00(10月20日) ※15:00～16:30休息

設有輪流利用廚房，身心障礙者利用所，買菜、介紹大中小店，並有專人指導。

團體費有三位方案(2,200円)，根據不同需求提供不同的餐點內容。



2. 伊豆沼農產介紹(集客部門)



2. 伊豆沼農產介紹(飲食教育・環境教育)



ARK 館之森簡報

アークグループの取り組み

ARK 館之森
アークグループ

事業概要



会社概要



関心認識、農業人化、
就業促進、就業促進

アーク館之森（店舗）

アーク館之森は、アークグループの中心となる店舗です。



アーク館之森は、アークグループの中心となる店舗です。

店舗販売部門



農場事業部門



製造加工部門



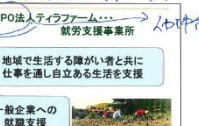
手づくり（有）アークファーム



株式会社若菜...



株式会社アークファーム...



循環型農業の確立



会社経営を強くする多角化経営

